

# 学生諸君よ、試行錯誤しながら 自分探しをしようぜ！

実は、私は超劣等生でした。高3の全国模試では偏差値25を達成！

担任からは「進学はあきらめろ」と言われたアホ少年でした。

浪人中に、何故か癌の研究者になろうと思い理系の大学にいきましたが、解剖がダメ、pg（ピコグラム＝1兆分の1グラム）なんて細かい作業は向いて無いと分かっただけの墮落した学部時代でした。ひたすらジャズとボウリングと睡眠の日々でした。当然、留年しました。（笑）

タウン紙記者を経て、高校の理科教師になりました。いわゆる「ヤンキー高校」で格闘していましたが、教職で習った事と現実にはかなりのギャップがありました。「教育の問題を学び直さないと…」と33歳の時決意して、勉強をゼ口からやり直しました。

最初は、教育哲学から入り、教育心理学をかじりましたが何かしっくりきませんでした。そして教育社会学が当時の自分にはビビッときたのです。そして今の師匠のゼミの聴講生にさせていただき、修士、博士と13年かけて到達しました。「ピグマリオン効果」という理論に出会った時に、自分のモヤモヤがスッパリ晴れ渡った感動は言い表せないものでした。そして社会学の実証研究へと専門が移っていきました。

社会学的な視座は、経済の諸問題の背景を知る手がかりになると考えて講義をしています。「ユニバーサル時代の大学教員は、研究者である前に教育者であるべきだ」この持論を実践すべく「魂の社会学講釈師」の立場で学生諸君と熱い時間を共有していきたいと考えています。

講義は「論文の読み方・書き方」を担当しています。

実は、論理的文章を読み書きするスキルは、自分の頭で思考するスキルなんだよね。「問い」の深さが、勝負なんだよ。

落ちこぼれた私だからできる、社会学者だからできる論文指導を目指して、「楽しくなければ講義ぢゃない！」を合言葉にしつつ、学生とともに「問いの世界」を追求しています。学生諸君よ、問え！問え！問うんぢゃああああああ!!回り道を恐れず、人生を問うんぢゃああああ!!



■論文の読み方・書き方

b1・b2・c1・c2

## 鷺北 貴史

(わしきた たかちか)

1961年 横浜生まれ。北里大学卒。タウン紙記者、理科教師を経て、30代半ばで大学院進学。慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。専門は、教育社会学・家族社会学。自称、リメディアル教育学会の旋風児(マイトガイ)「ユニバーサル時代の大学の在り方」が主な研究テーマ。